

Jネット勉強会(第十一回) 鉄道博物館見学会

大船白里町 藤沢勝一郎(東本町四丁目出身)

今回の勉強会は、首都圏に住んでいるながらなかなか行く機会のない鉄道博物館です。

ふるさと上越で過ごした時の通学や修学旅行、上京時に乗車した汽車や座席の懐かしさ、そして雪に苦勞して乗車した時のことを思いだしながら……。

場所は、JR大宮駅からニューシヤトルに乗り換えて一つ目の「鉄道博物館」駅から一分のところ。

駅から博物館までの歩道は、大きな時刻表タイルが敷き詰められています。

三月十五日(月)十三時に、博物館玄関に集合したのは、本日の見学者Jネット会員十四名。

玄関ロビーに入ったとたん、ビックリするほどの広さと展示車両の多さに驚きました。

再集合時間を決め、各自思い思いに

見学することになりました。

一階はヒストリーゾーン。

昔懐かしい機関車がたくさんありました。ND51。まず、これをバックに記念写真。



昭和三十三年に、東京・大阪間を六時間五十分の日帰り圏にした初の特急型電車がありました。この電車は冷暖房完備、電話やビュッフェなどが設備され、

以後の国鉄特急型電車の標準タイプとなり、新幹線電車の誕生に繋がったとのこと。ボランティア説明員が、適宜説明してくれます。このほか、空気バネ台車による快適な乗り心地で「走るホテル」と

言われ、後に「フルートレイン」と呼ばれた客車。大正八年に国産初となったC51型高速型蒸気機関車など、鉄道マニアでなくても必見の歴史的車両が数多く展示されています。

オォー。駅名表示も右から左へ読むようになっていて、古い書き方で「うやきょう」と。

自分が小学生だった頃、上越市の現「なおえつ」駅が「なほえつ」と書かれていたことを思い出しました。

列車の座席、肘掛が木製の展示物がありました。小学生だった頃の列車の椅子の背は、布張りだったと思いますが、肘掛は木製でした。これも懐かしい。

二階には、模型鉄道ジオラマ。横幅約二五m、奥行約八mの中に駅舎、発電所、橋梁、トンネルなど様々な鉄道施設とループ線、スイッチバックなど現在も存在する施設のある風景の中を1/80の



藤沢さん

在来線電車、1/87の新幹線など多彩な車両が走るのを一望できます。

そして、ジオラマ内の照明を調節することによって、朝、昼、夜間など時間帯ごとが演出され、十五分ほどの観覧はあつという間に終わつたように感じました。

多くの子供達が、食い入るように見ているのが印象的でした。

ジオラマの次に、鉄道歴史年表を見ました。ここには、鉄道の歴史と社会的な歴史が年代ごとにとまとめられています。見応えがあります。ただ今回は、時間的に厳しかったことからじっくりと見られなかったことが残念です。

この階には、今回の企画展「雪にいだむ」がありました。

北海道、東北、上信越地方を中心に多くの路線が雪により、大小の被害を受けてきました。

雪害対策のための防雪林・防雪柵な

どはパネルで、ラッセル車・ロータリー車などの除雪車両は写真と1/8、1/15サイズの巨大模型で展示されています。このミニシアターでは、運行を守る人々、雪と闘う鉄道員などを紹介した映像を上映していました。

雪害発生の条件下でも、列車の定時運転と安全運行のため、昔から国鉄、JRでは大きな努力をしてきたことが理解できました。

この階には、もう一つ人気のコーナーがありました。運転シミュレーターを使った運転士体験教室です。高崎線の運転席から撮った実写映像が映し出され、走行音も流れます。揺れはありませんが運転席は、実車そっくり。体験順番待ちの女性もかなりいました。

再集合時間に間に合うよう戻ってみると、近くのミュージアムショップは土産を買う人がいっぱい。

家族づれで来た方の中には、小さな子供は疲れて眠ってしまい、お父さんがだっこしたり、お父さん自身も疲れて、壁に寄りかかるようにして座り込んでいる風景も見受けられました。皆さん、今日は本当にお疲れ様でした。



積雪量 新井駅 650 cmとありました

